

# 在宅ケア「あるある事例集」作成の試み ～「見える化」した事で得たもの～

執筆 ▶ 浅野 満 医療法人資生会千歳市北区地域包括支援センター 主任介護支援専門員・社会福祉士  
富永 壮 同 センター長 保健師・認知症地域支援推進員

相談援助職の支援は専門職のスキルや判断によるところが多く、実践知の継承が難しいという側面がある。また市民や地域の専門職への業務内容の周知が進まないというジレンマもある。時代とともに支援内容が変化・複雑化している今だからこそ、その実践を記録として残し、支援者の教育や市民への活動の啓蒙に生かす時ではないだろうか。そう考え動き始めたのが、千歳市北区地域包括支援センターの浅野満さんと富永壮さんだ。より分かりやすく、伝わりやすく。支援を振り返りながら思いをこめて作成した「地域包括支援センター『あるある事例集』」をご紹介します。

## あるある事例集作成に至った経緯

当地域包括支援センターは、複雑化した生活上の課題や健康課題を抱えたケースへの関わりが年々増加している状況です。その背景要因として、単独高齢者及び高齢夫婦世帯のみの増加、子世帯が遠方におり家族関係の希薄等家族のあり方や価値観の多様化、健康・生活問題の多様化、時代の経過に伴う住民同士の交流の変化などが複雑に絡み合っています。事例の抱える健康・生活問題はまさに社会の縮図ですが、支援経過を振り返り視覚化（見える化）したものを保存しているものが少なく、在宅ケア経験のある支援者が十分に支援技術の伝承を行えていない事で、所謂「出たとこ勝負」という支援状況も課題となっています。

当センターでも、上記支援ケースにおいて地域ケア個別会議を開催し、支援者等に個別支援や地域の現状につい

での説明や検討を行ってきました。しかし新型コロナウイルス感染拡大時には地域展開が難しくなった事もあり、何かセンターに出来る事はないかと検討を始めました。

センター内で意見交換を行い、当センターで関わり実践した内容について視覚化（見える化）した事例集（以下、あるある事例集）を作成し、在宅ケア専門職や行政に配布する等啓発に取り組んではどうかとなりました。

## 地域状況について

北海道千歳市は北海道の石狩地方に属しており、人口は約97,000人、65歳以上の人口は約24,000人であり、高齢化率は24%程となっています。

北海道の空の玄関口でもある新千歳空港があり、支笏湖など観光資源も多くあります。特徴として陸上・航空自衛隊の基地があり、隊員及びその家族

が数多く住んでいます。また次世代半導体量産を目指す工場が現在建設されており、人口の増加、地価の上昇が見られています。

高齢化率は北海道で一番低く、“全道一若いマチ”といわれる千歳市ですが、高齢化率は徐々に上昇している状況です。担当している北区圏域においては新興住宅地も多く、最近では単身者用アパートの急増もあり高齢化率上昇は鈍化しています。しかし地域によっては高齢化率が高い地域もあり、地域差が大きくなっている面が認められます。

## あるある事例集の特徴について

「あるある事例集」は作成の経緯から、その目的を、「地域包括支援センターの個別支援について知ってもらう」ことを第一としています。主に実際に支援に繋がっていない対象者に対しどの様にして関わり、専門職としてアセスメン